

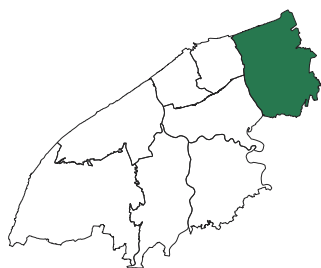
第6章 区別展開

「第4章 農業構想の実現方策」は全区共通で取り組むものですが、この「第6章 区別展開」では本市の行政区を基礎とした地域毎に、地域の特性や課題、取組の方向性を示します。

(1) 北区

基礎データ

出典：「2020年農林業センサス」農林水産省



- 農家数：1,414 戸（販売農家：1,009 戸、自給的農家：405 戸）
- 農業経営体数：1,024 経営体
（団体経営体：12 経営体、個人経営体：1,012 経営体）
- 基幹的農業従事者数：1,465 人（うち 65 歳以上：68.6%）
- 経営耕地面積：3,991ha（田：3,622ha、畑：352ha、樹園地：16ha）
- 主要作物：米、大豆、トマト、すいか、きゅうり、ねぎ、メロン、たまねぎ、なす、だいこん、さつまいも、さといも、日本なし、トルコギキョウ切花、肉用牛 等

地域の特性と課題

北区は、水稻を主体としつつ、園芸作物との経営複合化や園芸産地拡大にも積極的に取り組んでおり、中でもトマトとなすは、県下一の出荷量を誇っています。

また、砂丘畑を中心に栽培されていた葉たばこの廃作に伴い、収益力の高いすいか、メロンなどの大規模園芸団地を整備するとともに、北区産さつまいも「しるきーも」をブランド化するなど園芸作物への転換を図っています。

その一方で農業者の高齢化や担い手不足により、農業者数や生産量が減少しているほか、遊休農地も増加しているため、農業者の所得安定や、農業経営の担い手確保が重要な課題となっています。

取組の方向性

- 農業者の収益力向上に向けた、農産物の高品質化と高付加価値化の取組を支援するとともに、農地の集積・集約化等による農作業の効率化や意欲ある新たな就農希望者への支援・育成を推進し、農業経営の担い手確保に努めます。
- 「儲かる農業」の実現に向けて、水稻と園芸作物との複合経営の取り組みを推進するとともに、砂丘畑を中心とした高収益作物の導入を支援し、園芸産地の拡大及び遊休農地の解消を図ります。



トマト(大玉系)



やきなす



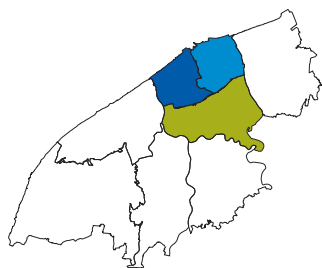
新潟すいか

(2) 東・中央・江南区

※東区及び中央区は、他区に比べ農地が少なく、信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた輪中地域として江南区と連担した環境にあることから、3地区を1地域として整理しました。

基礎データ

出典：「2020年農林業センサス」農林水産省



- 農家数：1,775 戸（販売農家：1,145 戸、自給的農家：630 戸）
- 農業経営体数：1,188 経営体
（団体経営体：28 経営体、個人経営体：1,160 経営体）
- 基幹的農業従事者数：1,903 人（うち 65 歳以上：67.9%）
- 経営耕地面積：4,184ha（田：3,657ha、畑：445ha、樹園地：81ha）
- 主要作物：米、大豆、いちご、きゅうり、えだまめ、女池菜、ホウレンソウ、小松菜、ねぎ、キャベツ、トマト、スイートコーン、なす、たまねぎ、ごぼう、にんじん、日本なし、西洋なし、ぶどう、うめ、切り花、チューリップ球根、乳用牛 等

地域の特性と課題

東・中央・江南区は、市内最大の消費地である市街地を有する一方、広大な田園地帯が広がり、水稻を主体としつつ、各地域の特性を活かした野菜・果樹・花き・球根などの多種多様な農産物が生産されており、都市近郊農業が営まれている地域です。

この地域性を活かし、「食と花の銘産品」などの地場農産物の消費拡大など、地産地消の推進に向けた様々な取組が実施されています。

しかしながら、主食用米の需要減少や米価の低迷、農業者の高齢化や後継者不在により、農業者数が減少するなど様々な課題があります。

取組の方向性

- 引き続き農地の集積・集約化を行うとともに、意欲ある多様な担い手の確保と育成を図ります。また、スマート農業導入による効率化や6次産業化による高付加価値化、園芸導入による複合経営などを促進し、「儲かる農業」や更なる地産地消の実現に向け、農業者への支援を推進します。



女池菜



藤五郎梅

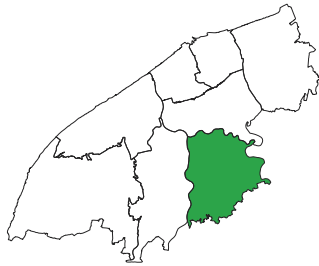


やわ肌ねぎ

(3) 秋葉区

基礎データ

出典：「2020年農林業センサス」農林水産省



- 農家数：1,192戸（販売農家：812戸、自給的農家：380戸）
- 農業経営体数：834経営体
（団体経営体：23経営体、個人経営体：811経営体）
- 基幹的農業従事者数：1,129人（うち65歳以上：70.9%）
- 経営耕地面積：3,336ha（田：3,160ha、畑：146ha、樹園地：30ha）
- 主要作物：米、大豆、えだまめ、さといも、いちご、プチヴェール、かき、ユリ切り花、アザレア、シャクナゲ、クリスマスローズ、チューリップ切花、乳用牛 等

地域の特性と課題

秋葉区は、信濃川、阿賀野川の流入により形成された沖積平野に広がる肥沃な農地で、水稻を主体とした農業が営まれています。アザレア、クリスマスローズ、ボケをはじめとする花き・花木は全国屈指の産地でもあり、毎年、市場見本市が開催されるなど全国の買参人から注目されています。

また、農地の基盤整備事業完了後の水田で麦・大豆が栽培されており、大麦「秋葉の里 白雪もち麦」のブランド化を目指し、産・福・学・官が連携した「Akiha もち麦プロジェクト」に取り組んでいます。

今後は、稲作と園芸作物の導入による複合経営への移行に向け、機械化体系が確立した高収益作物の栽培に取り組むことで、農業所得の向上並びに担い手確保を推進していく必要があります。

取組の方向性

- 全国市場への花き・花木の更なる販路拡大を、農業者団体と一体となって取り組みます。
- 地場農産物のブランド化を継続して実施するとともに、農地の基盤整備に合わせて、農業者及び関係団体と連携した高収益作物の選定を進めます。
- 環境保全型農業を推進し、安心・安全な農産物の供給に努めます。



うららこすど見本市



アザレア

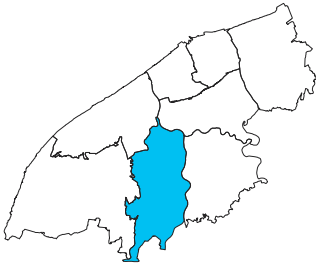


大麦「秋葉の里 白雪もち麦」

(4) 南区

基礎データ

出典：「2020年農林業センサス」農林水産省



- 農家数：1,828戸（販売農家：1,315戸、自給的農家：513戸）
- 農業経営体数：1,385経営体
（団体経営体：51経営体、個人経営体：1,334経営体）
- 基幹的農業従事者数：2,261人（うち65歳以上：64.4%）
- 経営耕地面積：5,596ha（田：5,029ha、畑：306ha、樹園地：260ha）
- 主要作物：米、大豆、えだまめ、いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、食用菊、そらまめ、たまねぎ、きのこ、日本なし、ぶどう、もも、西洋なし、いちじく、チューリップ切り花、鉢花、ユリ切り花、その他（アイリス、カラー）、乳用牛、豚 等

地域の特性と課題

南区は、信濃川、中ノ口川両河川によって育まれた肥沃な土壌を有し、県内でも有数の果物の生産量を誇るフルーツ王国です。

また果物だけでなく、水稻、園芸作物や畜産など、多様な農業が営まれているのが特徴で、「食と花の銘産品」である「しろねポーク」やチューリップの切り花の産地としても知られています。

一方、農家の高齢化による離農が進んでおり、遊休農地の発生を防止する必要があることから、農地の集積・集約化と新規就農者の確保が重要な課題となっています。

取組の方向性

- 全国や海外に通用するブランド品目を目指し、産地が行う販売促進PR事業に対する支援に取り組み、各種メディアを活用した南区産農産物のPRを進めるとともに、関係機関と連携して、果樹産地の維持・発展に取り組みます。
- また、稲作農家へ園芸作物導入による複合経営への移行を促進するとともに、転作作物の産地化を進め、南区産農産物の認知度向上を目指します。農地中間管理事業を活用した農地集積を図るとともに、樹園地の受委託を進め、廃園の防止に努めます。



ぶどう



チューリップ

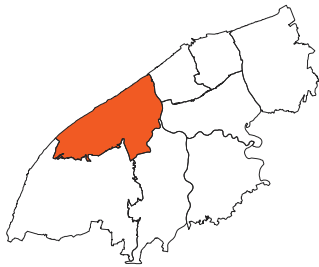


ル レクチエ

(5) 西区

基礎データ

出典：「2020年農林業センサス」農林水産省



- 農家数：1,170 戸（販売農家：909 戸、自給的農家：261 戸）
- 農業経営体数：925 経営体
（団体経営体：12 経営体、個人経営体：913 経営体）
- 基幹的農業従事者数：1,504 人（うち 65 歳以上：61.0%）
- 経営耕地面積：3,650ha（田：2,896ha、畑：746ha、樹園地：7ha）
- 主要作物：米、すいか、だいこん、ねぎ、えだまめ、ブロッコリー、メロン、かぶ、さつまいも、小松菜、にんじん、かぼちゃ、そらまめ、カリフラワー、いちじく、チューリップ切り花、チューリップ球根 等

地域の特性と課題

西区は日本海の夕日や海辺空間、信濃川や佐潟など多くの水辺環境のもと、稲作を主体としていますが畑作も盛んです。国の地理的表示（GI）保護制度登録の「くろさき茶豆」や、海岸砂丘地帯では「いもジェンヌ」をはじめ、すいか、大根、ねぎ等が生産されています。

「くろさき茶豆」や「いもジェンヌ」は関係団体と組織した協議会を通じて、首都圏などに向けた一層の魅力発信等を進めることで、更に認知度を高めていく必要があります。

また、米価の低迷や農業就業者の減少・高齢化が進む中で、意欲ある担い手の確保や、生産性の向上が課題となっています。

取組の方向性

- 「くろさき茶豆」をはじめとする西区特産農産物の更なる知名度向上のため、県内外における PR を実施し、一層の販路と消費の拡大、高付加価値化とブランディングに取り組めます。
- 西区の農業を振興するため、多様な担い手の確保・育成を進めるとともに、作業効率の高い機械の導入や、農地の集積・集約化、園芸導入による複合経営や法人化を促し、引き続き安定した農業経営に向けた支援を行います。



くろさき茶豆



いもジェンヌ

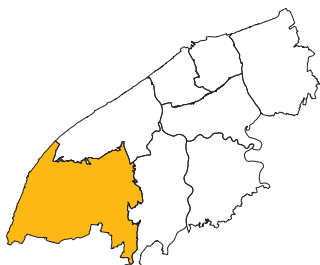


新潟すいか

(6) 西蒲区

基礎データ

出典：「2020年農林業センサス」農林水産省



- 農家数：2,296戸（販売農家：1,623戸、自給的農家：673戸）
- 農業経営体数：1,676経営体
（団体経営体：54経営体、個人経営体：1,622経営体）
- 基幹的農業従事者数：2,117人（うち65歳以上：74.1%）
- 経営耕地面積：7,709ha（田：7,270ha、畑：308ha、樹園地：131ha）
- 主要作物：米、大豆、すいか、トマト、みつば（水耕）、ねぎ、きゅうり、だいこん、小松菜、ごぼう、カリフラワー、春菊、メロン、そらまめ、たまねぎ、ながいも、キャベツ、かぶ、いちご、かき、いちじく、日本なし、ぶどう、もも、西洋なし、チューリップ切り花、ユリ切り花、ひまわり等切花、乳用牛、豚 等

地域の特性と課題

西蒲区は、佐渡弥彦米山国定公園、岩室温泉、上堰瀉などの観光資源が豊富な地域です。緑の山並みを背景とした水田にハザ並木が残る景観は、本市の農村地域を代表する景観となっています。

西蒲区の基幹産業は農業で、稲作のほか、「食と花の銘産品」に指定されている「越王おけさ柿」、いちじく「越の栗」などの果樹をはじめ、砂丘地帯を中心とした地域での多様な園芸作物の生産も盛んです。

高品質で多様な西蒲区産農産物を「西蒲ブランド」とし、更なる消費拡大を図るとともに、「にしかん なないろ野菜」など特徴のある農産物のブランド化に取り組む必要があります。

また販路の拡大とともに地域の活性化にもつながる農家レストランや直売所などの地域資源を活用し、生産者と消費者との交流を促進する必要があります。

取組の方向性

- 「田園の恵みを感じながら心豊かに暮らせる日本海拠点都市」にふさわしい広大な優良農地等を活かし、高品質で多様な「西蒲ブランド」の農産物の供給拠点を目指します。
- 力強い農業生産基盤などの整備・保全とともに、生産から加工・販売までを手がける6次産業化の推進や農業者と消費者の交流を深める農業体験を推進し、農業の魅力を伝え、将来の担い手の確保に努めます。



越王おけさ柿



にしかん なないろ野菜



いちじく「越の栗」